

脳内疾患治療より安全に

獨協医大病院は、脳内疾患治療に特化した最新型の定位放射線治療装置「ガンマナイフ エレクタ エスプリ」を国内で初めて導入し、4月から患者の治療を始めた。転移性脳腫瘍などが短時間で治療可能となり、患者の身体的負担が軽減されるほか、難疾患への対応が期待される。

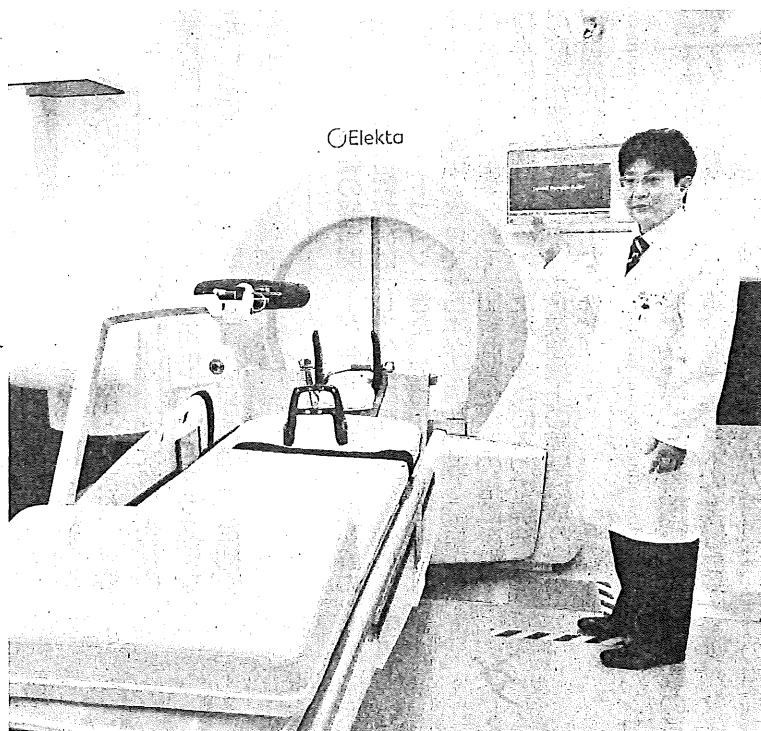
切らずに治療するガンマナイフ装置は、細い放射線約200本を病巣部に集中的に照射する。同病院の旧型機は頭蓋骨にピンを刺し固定具で患者を固定していた。最新型は患者の顔に合わせたマスクを用いることができ、心身の負担が減るといふ。

最新放射線装置 全国で初の導入 獨協医大

複数回に分けた分割照射が容易になり、治療困難だった大きな脳腫瘍や視神経、脳幹部近傍の腫瘍をより安全に治療できる。装置の自動化により治療時間が格段に短くなったほか、治療計画を作るソフトウェアが更新され作成時間も短縮できるという。

同病院は昨年9月、ガンマナイフ治療で名高い米ピッツバーグ大脳神経外科で業績を挙げた叶准幸医師（53）を脳神経外科准教授に招き準備を進めた。旧型機ではガンマナイフによる治療患者は月平均10人ほどだったが、1日当たり4人ほどに増えている。

腫瘍の大きさや数にもよるが、治療時間は1回当たり1〜2時間



最新型の定位放射線治療装置を説明する叶准教授
＝壬生町北小林

程度で、入院せずに外来でも受けられる。一般的な疾患は保険適用と高額療養費制度の対象になる。栃木県の医療に貢献したい」と話した。

（榎木澤良大）